

去るに後お理のうゝ意致上候にふり
まふ面二お意取有に候へども此
書件ハ其理の端に達せり今も此
因ふを以て見せお願ひて二お意
二の書に書きたりて二とて候へ

かりしに候



春の夜お月あけのうゝ東都上野の女
あふる二お登る有の信くそとては
高井のついでに清くはあけのうゝ
月あけのうゝお月あけのうゝ
一のあけのうゝお月あけのうゝ

かきとるのうゝ

伊達政宗書狀

黒花押

1307
41
1

